



悪い虫や毒蛇を食う孔雀の性格を神格化したもので、蛇毒をはじめ一切の諸毒や心の不安災厄を滅する働きをする。像容は菩薩形のやさしいお顔である。四臂には蓮華、俱絳果(佛縁をそなえた果物)、吉祥果(ザクロ)と孔雀の尾等を持つ。

(注) 仏像についてはまだまだありませんが、紙面の都合で一まず休ませていただきます。折にふれ續きを載せさせていただきます。(編集部)

郷土史講座に出席して

斎藤徳重

八月二十一日(日)午前七時、雨が次第に強くなり、雷も鳴りだした。「こんな雨でも行くんでしよう」と心配げに兩戸を締めながら言う妻に「もちろん行くよ。そろそろ用意しなさい」と私。

一昨年、北九州から越して来て最初に入会したのが郷土研である。地元酒々井の歴史を知り、「温故知新」の機縁とするためにも最高のチャンスと二人の会話にも熱が入っていた。

午前九時四十分、出足もなかなか好調だ。はやる心を抑えながら受付で頂いた講座資料「史

料に読む酒々井町の歴史のひとこま」に私は一瞬大きな感動を覚えた。一二二頁にも及ぶ資料内容の豊富さと体裁の良さは抜群で、講師のお人柄と講義に取り組む先生の姿勢が伺えてた。頭の下がる思いで、早く聞きたい早く知りたいて心が弾む。

開講行事のあと講師の紹介があり、講師の高橋健一先生は下岩橋の方で郷土研の会員でもあると聞いて更に感銘を深くした。先生の講義は歯切れもよく、判りやすいので私達をぐんぐんと歴史の世界に引きずり込んでゆく。私の眼は輝き、いつしかメモを取るのも忘れ勝ちだった。図版、文献、古文書や絵図に、活字、

ワイプロと巧みにこなし、その上、付記・特記・注釈に系図あり、アンダーラインで誰にでも判り易く工夫してある。資料には、各所に佐倉や酒々井ゆかりの地名や人名が載っていて、その説明を聞く度にトキメキを覚え、郷土研の魅力に浸った。

私にはこの度の講座を機に、今後は更に地元の歴史に親しみ、より豊かで、住み良い、文化の香り高い酒々井町の発展を願いつつ、次回の講座を楽しみにしています。

赴報

去る七月一日、郷土研究会運営委員の石橋悟さんがご逝去されました。何事にも意欲的に取り組まれる方でした。心より御冥福をお祈りします。

去る七月二十一日、郷土研究会顧問で初代会長の相京晴次さんがご逝去されました。郷土研究会の基盤を作られ我々を指導して下さるとともに酒々井町の町史の編さんに御尽力されました。心よりご冥福をお祈りします。合掌

郷土研日誌 No. 78-9月		
日	内容	参加人数
7月3日	史跡文化財調査活動(北郷地区-酒々井町歴史資料館)	39名
7月5日	石橋悟郎(地と人門方面)	25
7月9日	文芸会(雨天のため中止)	0
8月21日	郷土史講座「史料に説く酒々井町の歴史のひとこま」	50
8月26日	部員会	9
8月30日	運営委員会	26
9月10日	文芸会	7
9月16日	石橋悟郎(宇野西新井無銘・宇野方面)	20
9月23日	会報発行	25
		201

生涯学習フェスティバル参加

酒々井町「道の辺の石仏と双体道祖神」の写真展

路傍や寺社の境内などみぢかな所で目にできる野仏は、造立に携わった当時の庶民の心、その背景にある様々な信仰を伝える貴重な文化遺産です。



大日如来をはじめ阿弥陀如来、観音菩薩、不動明王、庚申塔、双体道祖神等、自然と融合した野仏の美しさを味わってみてはいかがでしょうか。

十一月五日(土)〜十一月八日(火)まで、中央公民館のロビーにおいて解説展示いたします。



あの日あの時

白石栄子

平成六年七月二十一日の早朝六時に電話のベルが鳴りました。相京晴次さんの息子さんから「夕の様子から、もしかしたらと不安な思いでいたのが、「今日の四八分に父が亡くなりまし」と聞くと胸の奥から熱い塊りがこみ上げてきて、「残念でした」と答える自分の声が泣くのを一生懸命こらえていま

相京晴次さんは俳句の世界では山頭火達と共に「層雲」の同人で萩原井泉水先生に師事し、先生が印旛沼へ吟行に来られた折には、相京さん宅に立寄られました。また酒々井町の歴史に關しては他に並ぶ者のない第一人者で『酒々井町史』の編さんに力を尽されました。

昭和五十一年、それまで少数の人達の勉強会であった「地方史研究会」から、もっと広く一般の人達とも楽しみたいと「郷土研究会」を発足されました。会長にあること一〇年。会は相京さんにおんぶに抱っこで、

発足時一〇六名だった会員数が三三〇名の大世帯になりました。私利私欲からは全く縁遠い人で郷土研への愛情一すじ。「公の世話はボランティアでなければいけませんよ」が口癖でした。フライドの高さと頑固なことは大変なもの。若い頃には社会主義キリスト教の洗礼も受けて、救世軍の社会員ではタンバリンを叩いていたのに、社会党と朝日新聞が大嫌いとは不思議なことでした。ありとあらゆるものに興味を持ち、探見し、突然「〇〇を見に行きますよ」と呼び出しがかかれば西へ東へお供することしばしばでした。その頃の相京さんの車は水陸両用車で、山あり谷あり道なき道も進んで行きました。



在りし日の相京さん、左より2人目 (昭和63年9月)

会長を退かれてからも「郷土研」はやっぱり我が子同様でしたが、体調を崩しての入院生活の間に好物の煎餅の包み紙を集めて「次の会報に、全国煎餅博覧記」を書きますよ」と言われた約束も果たされずに逝ってしまわれました。でも相京さんのことですから、今頃は天国のあちらこちらを歩き見てもう少ししたら「天国歴史さんぽ」が届くかもと心のどこかで待っているのです。

暁天に星の流れて 師の赴聞く 合掌。

泉をかこんで一休み くんでもつきない泉のように よもやまはなしが つぎます。 どうぞあなにもお仲間

見学案内

県外見学会 10月(月)

◎ 水戸・空間方面

紅葉の時期、水戸黄門でお馴染みの西山荘や空間の菊まつり等を見て帰ってきませう。

● 大洗磯前神社

大洗海岸の南寄りの台地上にあり、海岸が一望できます。文徳天皇八五六年の創建と伝えられる古社で翌年「大洗磯前兼善薩名神」の称号を賜り、今又大洗磯前では国幣中社という高い神格をもつていました。

● 東海村村松虚空蔵堂

原子力研究所の南側にあり、日本三虚空蔵の一つ。境内には徳川吉昭が選んだ水戸八景の一つ「村松晴嵐」の碑が建っています。

● 西山荘

水戸光園が元禄四年(一六九一)の六十四歳から天寿を全うする七十三歳までの晩年を過ごし、「大日本史」の編さんを行った場所です。

● 常北町薬師寺

石塚の街中であり、平安時代の初め、坂上田村麻呂が国家鎮護祈願のために建てさせたのが始まり。昭和三十三年石塚大火で焼失。昭和四十年に鉄筋コンクリートの近代建築で再建。寺の本尊は焼失を免れ、国重要文化財となっています。

● 小松寺

白雲山普明院小松寺といい、平清盛の長男若くして亡くなった平重盛の墓があります。

● 空間稲荷神社

日本三大稲荷の一つです。菊まつりには、丹精こめた菊三、〇〇〇余鉢が境内咲くと並べられて、参拝者の目を楽ませます。

郷土研行事案内

平成6年10月~12月

	10月	11月	12月
史談会	8日(土) 午後1時30分 (雨天中止) 「酒々井町の石仏と文化財」 中央公民館サクル室 (根谷地区)	12日(土) 午後1時30分 (雨天中止) 「酒々井町の石仏と文化財」 中央公民館サクル室	10日(土) 午後1時30分 (雨天中止) 「酒々井町の石仏と文化財」 中央公民館サクル室
名勝探訪	12月2日(金) (雨天中止) 代替日12月8日(木) 九段・神田方面	京成酒々井駅 8:25 集合 京成酒々井 → 地下鉄九段下 → 靖国神社 → 遊就館 → 飯田橋 → 秋葉原 → 交通博物館 → 秋葉原 → 酒々井	
生涯学習 フェスティバル 文化展	11月5日(金)~8日(火) 9:00~16:00 酒々井町「道の辺の石仏と双体道祖神」写真展 ひっそりと佇む野仏の美しさと見守る人々の心の温かさを味わってみてください。	場所 酒々井町中央公民館 ロビー	
県内 見学会	10月13日(木) A班・10月17日(月) B班 (各班定員33名) 小見川 佐原 方面 酒々井 → 平田三龜墓(神崎町) → 迎接寺(下総町) → 莊蔵寺(佐原市) → 樹林寺(小見川町) → 良文貝塚 → 来迎寺(小見川町) → 酒々井 申込受付 10月7日(金) 9:00より 日時・場所 中央公民館 ロビー 費用-1,000円 (昼食代は入っていない) (雨天決行) キャンセル-実施日3日前まで 会田秀雄宅に連絡下さい。		
県外 見学会	11月7日(月) (定員45名) (雨天決行) 水戸・笠間方面 酒々井中央公民館 → 磯崎神社(大洗町) → 村松虚空蔵堂(東海村) → 西山荘(常陸太田市) 昼食 → 佐久山薬師寺(常北町) → 小松寺(常北町) → 笠間稻荷神社(菰まつ)(笠間市) → 酒々井 申込受付 10月7日(金) 日時・場所 9:00より (公民館ロビー) キャンセル-実施日3日前まで 会田秀雄宅に		

見学会案内

◎ 県内見学会 10/13(木)・10/17(月)  
小見川・佐原方面 (雨天決行)  
住宅建設がすすめられてきている公津の杜、成田ニュータウンを経て佐原街道へ、利根川流域の史跡をたずねます。

◎ 迎接寺(下総町冬父)  
冬父山三世院迎接寺で、珍しい鬼舞面十三面が保存されている。  
平田三龜の墓(下総町心光寺跡)  
「天保水滸伝」では平手造酒として登場する平田三龜の墓で儀刀信忠居士、天保十五年辰年八月六日とあります。当時、笹川繁蔵の子分、剣の使い手でしたが、体を悪くして、此の土地の山口市左右門、岡野茂兵衛さんの両家にかくまわれてもらい、用心棒をつとめたといわれています。

◎ 莊蔵寺(佐原市佐原)  
国の重要文化財の十二面観音立像があり、県内最古の木彫像。  
樹林寺(小見川町五郷内) あじふ寺、平良文公の念持仏があり、愛蔵寺ともいいます。臨済宗妙心寺派、本尊は千手千眼観世音菩薩で、裏山の庭園には三十三体の観音が祀られています。

◎ 来迎寺(小見川町)  
東光山来迎寺で浄土宗鎮西派、京都の知恩院の末寺で江戸時代の初期、此の地の領主(二〇〇石)の松平外記公昌の仮陣屋が一時設置されたこともあったといわれています。境内には、源氏三將軍の墓があります。貴光院殿頼家公、八正院殿頼朝公、純公院殿実朝公、この寺の附近には、国指定の史跡の良文貝塚、阿玉台、貝塚がある。

名勝探訪

◎ 九段・神田方面 12/2(金) 雨天代替 12/8(木)  
九段下駅を出て上り坂をのぼると靖国神社の巨大な鳥居が見えます。参道の途中にはこの地を選んだ大村益次郎の銅像があり、我が国最初のものです。質問! この人はどちらを向いていると思いますか。... 境内には遊就館があり戦没者の遺品、遺書などが展示されています。ひとつひとつをぐらんになつてのよう感じられます。昼食は飯田橋界隈で自由食になります。昼食は午後には神田(万世橋)にある交通博物館へ、童心にかえり鉄道開通当時の機関車や電車や客車などの展示物を見て、日が沈むのが早いので一路酒々井へ帰りましょう。



あとがき

今年の夏は太陽が自分の存在を誇示しているかのような記録的な猛暑、そして水不足で雨乞いの行事も復活したとか、普段無尽蔵にあると思われる水も改めて貴重な資源であることを痛感しました。

さて去る七月三日の史跡文化財愛護活動には八時という早い時間からの活動にもかかわらず多勢の方の参加があり、どうもありがとうございました。ギリギリ太陽が照りつける中、みるみるきれいに草が刈られていくのは本当に気持ちいいものです。

そして町内の田んぼでは黄金色の稲穂が頭を垂れ自信に満ちたように刈り取りを待っていました。今年には作況指数が一〇五、八年ぶりの豊作とか、おいしいお米が思いっきり食べられるのも間もなくですね。

おいしいお米にぎりを持って郷土研への参加をお待ちしています。